人が尊重され、
生きがいを感じられるあたたかい町

人権啓発コーナー

問　生涯学習課　☎0965-52-5860

毎月11日は人権を確かめあう日です

人権に関する動画を放映します。
皆さんの参加をお待ちしています。

■ テーマ
高齢者の人権を考える
■ 日　時　2月10日(火) 13時30分
■ 場　所　氷川町文化センター ロビー

あいさつは心と心をつないでいく

生涯学習課では、出前講座として各地区の公民館で実施されているいきいきサロンで人権学習を実施しています。

ある公民館で実施した時に、心に残る言葉が壁に貼られていました。それは、三合い運動の推進（で合い、ふれ合い、つき合い）、オハヨウで人と接する心を開き、コンニチワであなたの心をつたえ、コンバンワで心のつかれをいやす、あいさつは心と心をつないでいくという言葉でした。「人と人のつながり」の大切さ、「あいさつ」の大切さを改めて考えさせられました。私事になりますが先日、ゴミ出しに行った時、後ろの方から「おはようございます」と声をかけられました。初めて会った人でしたが、私の方もすぐにあいさつをお返ししました。何か知り合いができたような思いになり、朝から気持ちよくスタートをきることができました。

あいさつは、「人と人の関係を築く第一歩」、「人と人をつなぐ最初の橋」といわれています。あいさつを大切にして、人が尊重され、生きがいが感じられるあたたかい氷川町にしていきましょう。

八火図書館だより

☎0965-62-3489

暦の上では冬が終わり、春に向かって季節は移っていきます。ただ「三寒四温」といわれるよう寒さはもう少し続きますが、図書館には、心温まる内容の本がたくさんあります。暖かい春を楽しみに、この時期も読書に親しみましょう。

新着図書紹介

■ 一般書

さよならジャバウォック ／ 伊坂 幸太郎
暁星 ／ 湊 かなえ
ちゃぶ台ぐるぐる ／ 群 ようこ
陰態の家 ／ 夢枕 獏

■ 児童書

みえないおしごと ／ とくなが けい
ふわふわさん ／ 角野 栄子
やさしいさんぽつや ／ くすのき しげのり
みんなの居場所 ／ 白矢 三恵

おすすめ図書

ナモナキ生活はつづく ／ 寺地 はるな

世界のどこかで今日も洗濯機をまわしながら野菜を刻み、鍋で煮込むあいだにあわただしく掃除機をかけ、自分や家族の生活を整えているあなたへ贈るエッセイ集。

お知らせ

第52回 八火図書館本まつり開催!!

本まつりは、八火先生（故・光永星郎氏）の命日である2月20日前後に、八火精神の継承と町民の読書活動の推進を図ることを目的とし、毎年開催しています。

読書感想文・感想画入賞者や多読賞の表彰のほか、今年度は『劇団 ぱれっと』による人形劇など楽しい催しとなっています。

たくさんのご参加をお待ちしています。

◆ 日時　2月7日㊏
◆ 場所　氷川町公民館（多目的ホール）
◆ 日程　○受付　13時30分～
　　○開会行事・表彰　14時～
　　○お楽しみ会　14時30分～
<人形劇>　演目　『赤ずきん』

こ家センの
子育てLabo

こども家庭センターのスタッフが子育てについての情報を発信していきます！

今月のトピック

「マルトリートメント」って何？

「マルトリートメント（マルトリ）」とは虐待だけではなく、大人からこどもへの「不適切な養育全て」を指すものです。マルトリによってこどもの脳は傷つき、将来の心身の健康や行動に影響を及ぼすことが分かってきました。しかし、適切な関わりにより傷ついた脳が回復する可能性もあります。

身体的マルトリ
・たたく
・罰として長時間正座をさせる

ネグレクト
・こどもに食事や教育を与えない
・スマホなどで長時間こどもに動画の視聴・ゲームを許す

性的マルトリ
・嫌がるこどもと風呂に入る
・親が全裸で部屋をウロウロする

心理的マルトリ
・他の子と比べる
・言葉の暴力
・こどもの前で夫婦ゲンカを見聞きさせる

出典：「防ごう！マルトリートメント」

人は誰しも完璧ではないからこそ、子育てのストレスによって思わず暴言をはいたり、ネグレクトに近い状態になったりとマルトリをしてしまう可能性があります。マルトリの影響を知り、繰り返さないことが必要です。そのためには、客観的に自分を見つめ、リフレッシュすることも大事です。また、こどもと関わる周りの大人もマルトリを知り、理解を深めることが重要です。

○子育てに不安や辛さを感じたら一人で悩まずに相談してください。
・氷川町こども家庭センター　☎0965-62-3456
○子育てに悩んだり、おしゃべりしたくなったら気軽にお立ち寄りください。
・氷川町子育て支援センター　☎0965-62-3456

町民文芸

投稿先　〒869-4814　氷川町島地642番地　企画財政課宛（毎月5日必着）

短歌

今朝の窓開けると寒い冬空の
めくりカレンダー十二月
西野津　古崎　栄子

苦労越え九十九年生きた姉
ほほえみて往く天使の様に
西野津　古崎　スエノ

年の果て沈む夕日を止めにゆく
水平線につっかい棒を立て
北野津　井田　道寛

終着駅は始発駅楽しく生きよう95歳
西上宮　広松　真実子

俳句

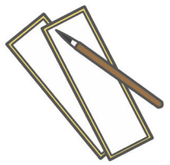
幼子やタオルまんじゅう湯気の中
西上宮　山下　環

庭先の山茶花落花冬時雨
西野津　古崎　栄子

新年や子孫（こまご）もみんな墓参る
西野津　古崎　スエノ

言霊（ことだま）を命とすべし寒の百舌鳥（もず）
北野津　井田　道寛

久に訪う我が家空き家か冬珊瑚
西上宮　広松　真実子



『金閣寺燃ゆる』
三島由紀夫「金閣寺」から　その15
法道寺　本田　花風

そこに一人の若い女が坐っている。私の目に映ったものはそれだったのである。戦争中にこんなに派手な長振袖の女の姿を見ることはたえてなかった。本当に生きている女かと疑われた。「あれは、一体、生きてるんやろうか」「僕も今そう思っていたんだ。人形みたいだな」鶴川は目を離さず答えた。

二人が見ていると奥から、軍服の若い陸軍士官があらわれて、二人は対座した。作法どおりに薄茶を出したが男は茶を喫しない。信じがたいことが起ったのはそのあとである。女は姿勢を正したまま、俄かに襟元をくつろげて白い胸があらわれた。私は息を呑んだ。女は白い豊かな乳房の片方を、あらわに自分の手で引き出した。士官は茶碗を捧げ持って、女の前へ膝行した。女は乳房を両手で揉むようにした。暗い茶碗の内側に泡立っている鶯色の茶の中へ、白いあたたかい乳がほとばしり、滴りを残して納まるさま、静寂な茶のおもてなしがこの白い乳に濁って泡立つさまを、眼前に見るようにありありと感じたのである。男は茶碗をかかげ、そのふしぎな茶を飲み干した。女の白い胸もとは隠された。それは士官の子を孕んだ女と、出陣する士官との別れの儀式であったかもと思われる。女が立ち去ったあとでは、その日も、あくる日も、又次の日も、私は執拗に思うのであった。たしかにあの女は、よみがえった有為子その人だと。有為子の存在を溝口に語らせる重要な儀式の場面である。

第二章はここで終わる。

三島が「事実」を根底に置きながらも、あくまでも「虚構」として作品を創りあげていることを現わす場面であろうが、この儀式、当時の習わしとして存在していたかのように語られている。しかしそれを確認する手段はなかった。